

「気候変動に対する適応を考えるシンポジウム－阿武隈川のこれからを考える意見交換会－」 で講演を行いました(2018/7/13)

テーマ：気候変動、適応、砂浜
場所：コラッセふくしま（福島市）

7月13日、福島市で「気候変動に対する適応を考えるシンポジウム－阿武隈川のこれからを考える意見交換会－」が開催されました。当研究所から災害リスク研究部門 災害ポテンシャル研究分野の有働恵子准教授が参加し、「砂浜の影響と適応に向けて」というタイトルで講演を行いました。2018年7月豪雨の直後の会合であったこともあり、今後の減災対策について、熱心な議論が交わされました。有働准教授からも、今回の豪雨による土砂生産の河川・海岸への影響について指摘しました。

【日 時】：2018年7月13日（金）13：30～17：00(13:00 開場)

【共 催】：文部科学省 気候変動適応技術社会実装プログラム SI-CAT
阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

【後 援】：阿武隈サミット実行委員会
福島大学共生システム理工学類

【プログラム】

気候変動の影響と適応に向けて 話題提供 ※講演順

- 適応化： 林 誠二（国立環境研究所）
- 砂 浜： 有働恵子（東北大学災害科学国際研究所）
- 貯水池： 梅田 信（東北大学大学院工学研究科）
- 森林火災：横尾善之（福島大学共生システム理工学類）
- 斜面崩壊：川越清樹（福島大学共生システム理工学類）
- 洪水： 風間 聡（東北大学大学院工学研究科）
- 阿武隈川の減災対策：国土交通省東北地方整備局

質疑応答



文責：有働恵子（災害リスク研究部門）